

愛知県難病団体連合会関係の皆様へ

令和元年 5 月吉日

電動車椅子寄与のお願い

拝啓 薫風の候、皆様ご清祥のこととお喜び申し上げます。愛知県難病団体連合会の皆様、関係者様には常日頃より大変お世話になっております。この度、私が以前より続けているシリア難民障害者支援として 6 月にヨルダンを訪問することになりました。文面でのご説明となり大変恐縮ですが、愛知難病連合会ご関係者様にお願いがあり私の経緯を兼ねて報告させていただきます。

2018 現在、世界保健機構（WHO）の報告では約 50 万人のシリア難民がヨルダンで暮らしており、その約 80%は難民キャンプの劣悪な状況を逃れるため都市部のアパートで暮らす都市型難民と言われています。都市のアパートとはいっても防寒・防熱は乏しい劣悪な環境が多く、立地・土地柄の悪路も合間って移動面に問題のある障害者は難民が故の社会参加の希薄さから結果的に家に引きこもり、褥瘡や関節拘縮などの廃用症候群が大きな問題となっています。しかしながら、良くも悪くも日本のメディアでは毎日報道されていた紛争・難民への注目が無くなった今、都市型の障害者支援を展開する全ての日本の団体が資金面の問題から撤退を余儀無くされました。現地はヨルダン政府を含めてもシリア難民障害者の生活状況や居住地でさえ把握ができる団体は無く、限られたシリア難民の障害当事者間での繋がりのみが彼らの支えとなっています。

私は 2015 年から 2017 年まで青年海外協力隊の作業療法士としてヨルダンで活動していました。その活動の一つとして日本の NGO と共同してシリア難民障害者への訪問リハビリやシリア難民障害者支援者への講習会を行ってきましたが、障害者はシリア紛争による砲撃・空爆・被弾で受傷した脊髄損傷や下肢切断が多く今後も長期的な医療的援助が必要とされています。

昨年 2018 年に私は日本人医師と共にヨルダンを再訪問し、かつての知り合いを介して障害者の訪問医療と現状把握を行ってきました。彼らからは電動車椅子を必要とした要望が多く、その理由は「障害は治らないけど仕事をして家族や友人を助きたい」「自分と同じように困っている障害者の為に話だけでも聞きに行きたい」という声が聞かれました。しかし、ヨルダンで電動車椅子は非常に高額で就労が限定されているシリア難民にとって購入は難しく提供をする組織もありません。シリア難民の障害当事者が限りある繋がりや友人に会う為に、就労をして家族を支える為に、そしていつかシリアに帰った時の移動手段として電動車椅子を必要としています。もし使わなくなった電動車椅子をお持ちで寄与して頂ける方がおられましたら私が責任を持ってヨルダンへ輸送し、必要としている方へ直接お渡しします。興味をお持ちの方で一報頂けましたら詳細もご説明いたします。どうぞ御協力のほど宜しくお願い致します。

敬具

Arab medical cloud 代表

甘利琢磨

連絡先：070-1409-6969 / arabmedicalcloud@gmail.com